

鹿児島大学病院広報誌

だより

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部

38号
2015.7

〈目次〉

〔診療科・部門紹介〕

- 》 心臓血管内科
- 》 心身医療科
- 》 医療環境安全部
- 》 全身管理歯科治療部
- 》 皮膚科
- 》 放射線部

- 鹿児島医療人育成プラン地域施設見学について
- 錦江湾魚ごよみ

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

1. 良質な医療を公平に受ける権利
2. 人としての尊厳を尊重される権利
3. プライバシーや個人情報が保護される権利
4. 自分の状態や診療内容について説明と情報提供を受ける権利
5. 自分の意思で医療を選択する権利

〈患者さんの責務〉

1. 自分の健康状態についてできる限り正確な情報を提供する責務
2. 当院の規則を守り、迷惑行為を慎む責務
3. 診療費を速やかに支払う責務

心血管疾患から 健やかな生活を守る

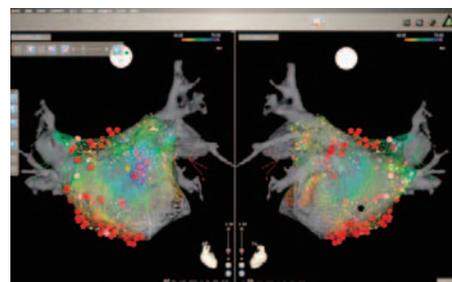
心臓血管内科

心臓は、絶え間なく全身に血液を送ることで体全体へ酸素や栄養を届ける“ポンプ”として機能しています。また血管は、心臓から繰り出された血液を体の隅々に届けるための供給路です。それ故、心臓や血管が健康であることが大切です。私たち心臓血管内科医は、心血管疾患から健やかな生活を守るため、24時間体制で向き合っており、毎年約9000件の心臓超音波検査や、約800件の心臓カテーテルによる検査・治療を行っています。

<狭心症・心筋梗塞> 心臓の表面には冠動脈かんどうみやくという血管が走っており、心臓の筋肉へ酸素や栄養を送り届けています。“狭心症”や“心筋梗塞”は、冠動脈が傷んでせまくなったりつまったりする病気です。必要なときには、せまくなった血管を血管内超音波検査で確認しながら、風船やステント（金網）などを用いてしっかりとひろげます。しかしながら一部の症例では、1年以内に治療部位が再びせまくなり、複数回の治療を余儀なくされることもあります。最近では光干渉断層法（OCT）を用いて、これまで見えなかったステント付近での現象がより明確にわかるようになってきました。ステント治療した部分がどのような理由で再狭窄しているか、そのメカニズムを解明し、よりすばらしい治療成績を目指して日々診療に役立てております。

<心房細動> 心臓は、心房という心臓の上の部屋から下の部屋へ「動け」という電気信号が流れて動きます。しかし心房が傷つき、その傷から電気がばらばらに出ると心房が細かく動き、“心房細動”となります。心房細動の状態では、心房の中の血液がよどむため血のかたまりができやすくなり、それが全身に飛んで脳梗塞しょうしやくなどを起こす原因となります。薬物による治療が基本ですが、最近は“高周波カテーテルアブレーション＝心筋焼灼術”が行われるようになってきております。カテーテルという細い管を心臓の中に持っていき、高周波を出して温度を上げ、カテーテルの先端の心筋を焼灼します。従来の『肺静脈隔離術』に加え、当科では心房の傷の電位をていねいに焼灼していく『CFAE アブレーション』という治療法を組み合わせ、全国レベルのアブレーションを行っています。

病気や治療についてのご質問など、お気軽に当科外来までご相談ください。



● 焼灼部位
● 心房細動 停止焼灼部位

一人ひとりの症状に合わせ、漢方医学や 心理療法を取り入れ全人的医療を目指す！

心身医療科

「ストレスがかかると症状が悪くなる」「検査では異常がないのに症状は続いている」「肥満などで、わかってはいるけれど生活習慣を変えられない」などでお困りの方々、もう治らないとあきらめていませんか？

心身医療科では一人一人の患者さんのライフスタイルや、心理社会的背景を加味した全人的医療をもとに、症状や生活習慣の改善を目指す診療を行っています。ストレスが関係していると言われる疾患は多数ありますが、ストレス社会といわれる現代では、自分でも気づかないうちに症状を悪くしてしまうことも多いのです！ 通常の内科的治療に加え、心理療法や漢方薬を組み合わせることで、長年お困りの慢性的な症状も改善することがあります。また、当科の専門外来として和漢診療外来（漢方診療センター内）があります。めまい・頭痛・身体の痛み・胃腸虚弱・疲れやすい・手足の冷え・しびれなどの慢性的な症状を対象に、漢方薬を中心として心身両面から治療を行っています。（※処方する漢方薬には健康保険が適用されます。）

お困りの症状がおありの方は、程度・部位に関わらず、ぜひ一度ご相談下さい。

感染症対策の スペシャリスト

医療環境安全部 感染制御部門

今日の医療では、高度で複雑な手術、ステロイドなどの免疫をおさえる薬、抗生剤、人工呼吸器といったさまざまな要因によって入院中に感染症が起りやすく、これらは院内感染と呼ばれます。国内外で抗生剤の効きにくい薬剤耐性菌の拡大が問題となっていますが、大学病院にはとくに免疫力の低下した患者さんが多いことから、薬剤耐性菌を早く見つけ、病院内でのひろがりを防止する必要があります。また、嘔吐下痢症やインフルエンザなどの病院内への持ち込みや、もし持ち込まれた場合のひろがりを防ぐことも重要です。

感染制御部門には、専門の資格を持つ感染制御医師と感染管理認定看護師が所属し、職員や院内環境から薬剤耐性菌がひろがることを防ぐため、手洗いを始めとした院内感染対策についての職員教育や、薬剤耐性菌やインフルエンザなどが見つかった際の対策強化を行っています。さらに、感染対策の専門的知識をもつ医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務職員による感染制御チーム（ICT）をつくり、病棟を毎週視察（ラウンド）して感染対策をチェックしたり、感染対策マニュアルの作成・改訂を行ったり、医師や看護師などから感染症の治療に関する相談を受けて、最新の情報を提供することも私たちの仕事です。

これからもみなさまに最良の医療を提供できるよう、さまざまな部署の職員と連携しながら病院全体の感染対策に努めたいと思います。みなさまにも手洗いの実施や、発熱やせきがあり感染症にかかっていると思われる場合には面会をさせていただきなど、院内感染対策にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



院内に掲示されている手洗いポスター



ミーティング(週3回)のようす



ICTラウンド(週1回)のようす

寝てる間に歯科治療

全身管理歯科治療部

全身管理歯科治療部では、精神鎮静法を用いて小さなお子様からお年寄りまでの歯科治療が恐い方に、半分眠ってリラックスした状態で治療を受けて頂く事が出来ます。精神鎮静法には笑気という麻酔ガスを吸う方法(笑気吸入鎮静法)や、点滴から鎮静剤という眠くなるお薬を投与する方法(静脈内鎮静法)などがあります。この精神鎮静法を用いると、緊張や不安を和らげ血圧や心拍数を安定させることができるため、病気を持った方でも安心して歯科治療を受けて頂く事が出来ます。さらに、この方法は嘔吐反射(口の中にもものを入れると吐き気がする)が強い方にも大変効果的で、吐き気を我慢することなく治療が受けられるようになります。歯科治療を受けたいのになかなかうまく出来ない方、ぜひ一度全身管理歯科治療部へお越し下さい。



皮膚科

顆粒球吸着除去療法 (GMA) に
関するお知らせ

皮膚疾患には難治性のものが少なくありません。膿疱性乾癬、ベーチェット病、壊疽性膿皮症、隆起性持久性紅斑、スウィート病などいわゆる好中球性皮膚症と称される疾患群はその代表的なものです。

鹿児島大学皮膚科では顆粒球吸着除去療法(GMA)に着目し、好中球性皮膚症に対する効果について臨床研究と基礎的研究を平成12年から進めてきました。GMAは酢酸セルロースビーズを吸着材として炎症組織に集積し病因となっている顆粒球・単球の除去とその細胞機能の制御を目的として開発された体外循環療法です。これまでに70例以上の治療経験を積み重ね、優れた臨床効果を確認し多くの論文として発表してきました。また本療法では活性化した病的な顆粒球(好中球とマクロファージ)だけが選択的に除去されること、またそのメカニズムを解明しました。

鹿児島大学の研究成果を踏まえ、平成22年から23年にかけて膿疱性乾癬に対する全国多施設共同試験が実施されました。その結果、この治療法は膿疱性乾癬に対して有効かつ安全で、患者のQOLを改善することが確認されました。こうして鹿児島大学で始まった新たな治療法は膿疱性乾癬に対する適応が承認され、平成24年10月1日保険に収載されました。

これらの研究成果はヨーロッパの学会で優秀賞を受賞するなど世界的に注目され、現在EU諸国で多施設共同研究が準備されています。

高度医療を支える
画像診断

今の医療では、画像は診断・治療の両方において、必要不可欠なものとなっています。病変の発見はもちろんですが、手術や放射線治療の計画にも画像が必要ですし、治療後の経過を見るためにも画像が用いられます。画像診断の中心を担っているのは、CT、MRI、PET/CTと血管造影検査で、鹿児島大学病院でも様々な場面で活躍しています。

CTはX線を使って体の断層像(輪切りの画像)を撮影する検査です。最新の装置ではきわめて高速に撮影でき、体全体を数秒で撮影したり、三次元の画像を得ることも容易です(図上段)。また、心臓のような動きの激しい臓器も正確に検査できます。放射線被ばくの問題がクローズアップされていますが、被ばく量を大幅に減らす技術も進歩しています。

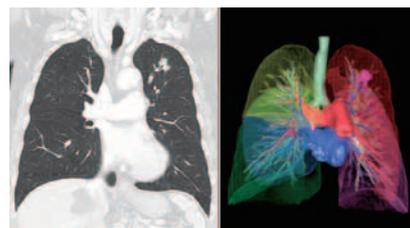
MRIは磁場を使って行う断層画像検査ですが、特に脳や脊髄、関節などで最も威力を発揮します。X線を使わないため、被ばくの心配はありません。また、CTでは見えにくい病変をはっきり捉えることができます。さらに最近の技術では、血流や脳の活動、脳内の神経線維の走行、代謝の情報を得ることもできます(図下段)。

PET検査では、微量の放射性同位元素を使って、全身のブドウ糖代謝を画像にします。癌などブドウ糖代謝が盛んな病変を見つけ、見つけることができます。

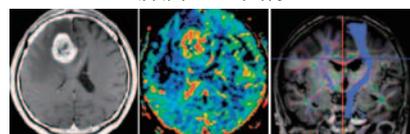
最後に血管造影ですが、カテーテルと呼ばれる管を血管内に入れ、そこから造影を行うものです。検査の目的で行うこともありますが、カテーテルを介して病変に薬を注入したり、血管の病気をコイルやステントを入れることで治療する場合があります。手術に代わる低侵襲治療として用いられます。

このように、鹿児島大学病院放射線部では、最新の画像診断技術を駆使して、患者さんのための高度医療を支えています。

放射線部



肺癌のCT画像



脳腫瘍のMRI画像

鹿児島医療人育成プラン 地域施設見学について

～住み慣れた地域で最期まで暮らし続けるシームレスケアを目指して～

鹿児島県医療人育成プランとして「3年間で一人前の看護師を育成する」という目標を掲げ、入職後3年目の看護師を対象とした地域施設見学研修があります。自分が受け持った患者さんを地域の施設や自宅を訪ねて、地域で暮らす患者・家族への生活のあり様や地域包括支援システム等を学ぶ研修です。

目的

1. 障害を残し地域・在宅で暮らす患者・家族への看護・介護の状況がわかる
2. 地域の患者・サービス利用者を取り巻く地域ケア体制や他職種協働を理解する。

1) 事前研修

鹿児島県の9つの医療圏の地域診断や医療資源の情報収集

住み慣れた地域で最期まで暮らし続ける

住み慣れた地域とは

鹿児島県全体であり9つの医療圏

鹿児島を知る



■地域診断

本県の保健医療に係る地域的課題について、人口構造、死亡原因、傷病別の受療状況等の観点から情報収集。

■医療資源を知る

医療圏に1つあるもの、各センター、病院、訪問看護ステーション、介護、施設、高齢者施設、コミュニティ等。



2) 見学研修内容



- (1) 患者さんを取り巻く環境と今の健康状態を知る
- (2) 患者さんが受けている医療・介護サービスの内容
- (3) 多職種が患者さんにどのように関わっているのか
- (4) 自分が支援した退院指導や生活指導がどのようにシームレスケアにつながったか
- (5) 家族や地域で患者を支えているもの(コミュニティなど)
- (6) 患者さんの語りを聴く



3) 報告会

内科病棟に勤務する看護師の報告を紹介いたします。地域包括支援センターでの事例検討会にも参加できました。



徳之島町

- 奄美保健医療圏
- 人口: 1万2094人 (2010年国勢調査)
- 高齢化率: 27.2% (県内37位)
- 徳之島で入院病床のある病院は2施設。2施設とも徳之島町に所在。

Aさんが住む地域の概要

徳之島

鹿児島島の南南西492キロの太平洋と東支那海の接線上に浮かぶ島。奄美大島より南西に位置する。天城町、伊仙町、徳之島町の3町がある。



Aさんを支えていたもの



- お孫さんたちからもらったたくさんの髪飾りは宝物
- お孫さんが頭の運動にすすめてくれた漢字の書き取りが日課となった。先日は授業参観に参加できてうれしかった
- 友人がメールや電話で励ましてくれる
- さみしくて仕方がない時は娘さんが駆けつけてくれる
- 気がふさぎ込みそうな時は親戚と一緒に過ごす

地域包括支援センター間での連携



- 定期的に3町(天城・伊仙・徳之島)の地域包括支援センターで会議を開催
- 徳之島保健所の保健師さんも参加
- 高齢者支援に関する決定事項を町役場の会議(行政)へ提案

平成26年度は38名の看護師が県内各地を訪問し、在宅への訪問が6割でした。患者さんのご家族、地域施設など多くの方々のご協力を得てこの研修を終えることができました。心から感謝申し上げます。平成27年度は68名の看護師が研修予定です。今年も宜しくお願い致します。

一面の海藻サラダ？

始良市の思川河口に広がる重富干潟は、錦江湾を代表する干潟の一つです。干潟は水を浄化する能力が非常に高い場所です。それは、干潟の泥の中に生息するゴカイや貝類等、また目に見えない多くの微生物が水の汚れのもととなる有機物を分解してくれるからです。岸边から急に深くなる錦江湾にはもともと干潟や浅瀬が少なく、また埋め立てによって多くの干潟や浅瀬を失った錦江湾にとって、わずかに残った干潟の存在は錦江湾の生命線と言えるものです。

平成 23 年 12 月霧島錦江湾国立公園に錦江湾の湾奥部が編入されました。重富干潟のそばには、環境省の重富海岸自然ふれあい館「なぎさミュージアム」が平成 27 年 4 月にオープンしました。ぜひ足を運んで重富干潟を感じて頂きたいと思います。

さて、私は、重富干潟までボートで出かけることにしました。干潟の沖がどうなっているか見てみたかったからです。鹿児島市から錦江湾西岸、吉野台地の崖を見上げながら錦江湾を北上します。岸近くを航行しているのに、魚群探知機は水深 100m 以上を示しています。干潟に近づくと、突然水深が浅くなりました。100m 以上から一気に 2m 以下まで浅くなり、海中を覗きこみますが、水の濁りもあって海底が見えません。

私は海中に滑り込みました。海底には見渡す限り、緑色の海藻アナアオサが繁茂していました。泳ぎ回ってみましたが、どこまで行っても一面に広がっています。

この大量のアナアオサも、錦江湾の水の浄化に大きく貢献していることでしょう。重富干潟は、陸上から目に見える干潟だけでなく、海面下でも重要な役割を果たしていました。

午後遅くの柔らかな日差しの中、鮮やかな緑のアナアオサが波に静かに揺れていました。その中をゆっくりと泳いでいると、私は大きな大きな海藻サラダのボウルに迷い込んだような気がしてきました。



海底一面に広がるアナアオサ。食べるには硬くて不向き。

TOPICS

「地域医療に尽くす鹿児島大学病院の最新手術」を出版しました

本書は鹿児島大学病院にて行われている代表的な手術を一般の方々にも分かりやすく解説することで、「手術や治療方法について知りたい」「鹿児島大学病院のことをもっと詳しく知りたい」と思われる方々のお役に立てることを目的として作成されました。様々な治療法や手術の様子のほか、病院スタッフの写真、治療を受けた患者さんの声などを紹介しております。

本書を通して、鹿児島大学病院を身近な存在として感じていただけたらありがたいと思っております。



広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。

また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈38号〉

2015(平成27)年7月発行

発行／鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>